

# 鳥取県民みんなで進める障がい者が暮らしやすい社会づくり条例 (愛称：あいサポート条例)

## あいサポート条例とは

鳥取県出身で、滋賀県において知的障がい児施設の近江学園を創設したことをはじめ、日本の障がい福祉の礎をつくりあげ、障がい福祉の父と呼ばれた糸賀一雄は、「この子らを世の光に」と語っています。

この言葉は、障がい児(者)を同情や哀れみの目で見ることではなく、一人一人がかけがえのない存在で、それぞれが個性を持った人間であることを認め合える社会をつくらうという思想を表したものと思われまます。

鳥取県では、この糸賀一雄の思いを受け止め、人々が互いを尊重し合う社会づくりを進める中で、障がいの特性を理解し、その特性に応じた必要な配慮をするとともに、障がい者が困っているときに、ちょっとした手助けを行う「あいサポート運動」をスタートさせ、その後も、障がい福祉サービスの充実、手話言語条例の制定など様々な取組を積み重ねてきました。

全ての県民が、これまでの取組を更に発展させ、障がい者が地域社会の中で自分らしく安心して生活できる暮らしやすい社会の実現を目指して、「鳥取県民みんなで進める障がい者が暮らしやすい社会づくり条例」(愛称：あいサポート条例)を制定しました。

施行日：平成29年9月1日

## あいサポート条例の特徴 5つの基本的な考え方

